

近森病院 看護部
看護部長 森本志保

看護人員

2024 年 4 月に、新卒看護師 36 名、既卒者 4 名を迎え、看護師 501.91 名+准看護師 16 名、看護補助者 132.29 名でスタートした。7 月にはインドネシアから特定技能生 4 名を看護補助者として迎えた。2024 年度、看護師の離職率は 14.3% (昨年 12.2%) で目標値 10.0% 以下は達成出来なかった。新人看護師の離職率は 12.82% (昨年 18.06%) であり、新人看護師の退職はやや減少したが、職場適応できず休職するスタッフもいた。今年度からプリセプターシップのほかメンターシップを導入し支援体制を強化した。看護師の退職理由としては、県内外の他施設への転職が多く、看護師としての適性への不安、奨学金の返済期間終了がきっかけになった退職も多かった。

近森病院看護部理念

「思いやりの心で、考える看護・自律した看護・つなぐ看護を実践する。」

* 思いやりの心とは、相手の立場に立って考え行動し、一人一人を大切に思うことです。

近森病院看護部基本方針

1.健康の回復と急性期看護

患者さんやご家族にとって最良の健康状態に到達できるように急性期看護をおこないます。

2.人間としての尊厳と人権の尊重

患者さん、一人一人を大切にする看護をおこないます。

3.チーム医療と地域連携

住み慣れた地域の中で、患者さんがその人らしい生活をできるように看護の力を発揮します。

4.看護者の豊かな人間性と自己研鑽

豊かな人間性と実践能力の高い専門職を目指し、自己研鑽に努めます。

今年度の取り組みとその成果

1.2024 年度近森病院看護部目標

「急性期からその人の人生を支える看護の一步を！」

退院支援・地域との連携を強め、患者の生活を支え、ACP・身体拘束最小化に取り組み、看護の質をさらに高めます。

2.取り組み内容とその成果

1)急性期機能の維持と質の保証

①効果的な病床管理と在院日数短縮

入院患者 1000 人/月、平均在院日数 11 日以内、病床稼働率 90% 以上を目指して取り組んだ。1 月

～12月の病床稼働率 85.4%、病床回転率 2.18%、平均在院日数 12.06 日で、目標とする 1000 人達成は 7 月のみであった。1 月・2 月・7 月はコロナの影響で在院日数が延長し、お断り件数は月平均 100 件前後であった。看護師の不足から 2023 年に北館 2 階病棟 25 床を閉鎖、続いて 2024 年 2 月に SCU15 床を閉鎖、10 月に HCU 病棟 24 床から 20 床へ変更しており、救急の受け入れに影響がみられている。2024 年度診療報酬改定では、下り搬送をする側と受け入れる側双方の新たな評価が設定された。6 月～12 月までの下り搬送は 57 件であり、今後は病院間の連携体制の強化が課題となる。

②身体拘束最小化に向けて

身体拘束の最小化が強化された背景には、「患者さんの尊厳を守ること」が理由の一つとして挙げられている。身体拘束最小化ワーキングのメンバーが、医療安全・倫理の視点から全体的な見直しを行い、身体拘束最小化のための指針・行動制限に関する説明書・身体拘束に関する同意書を作成、2025 年 4 月から運用の予定。今後はテンプレートの活用による記録、データ収集などへの取り組みが課題となる。2024 年の 5 月から合計 11 回の病棟ラウンドを実施し現場での教育的な関わりも行ってきた。

③ACP の仕組みづくり

ACP(アドバンス・ケア・プランニング)とは、将来の医療やケアについて、本人や家族、医療・介護チームが話し合っ、本人による意思決定を支援する取り組みである。4 月から ACP ワーキングの立ち上げ、近森病院版の指針作成、院内掲示用ポスターを作成、リーフレットの配布を行った。院内の勉強会として、①森下幸子先生「ACP と実践-対話と意思決定支援、②会田薫子先生「高齢者のためのエンドオブライフ・ケア」、③木澤義之先生「アドバンス・ケア・プランニング臨床現場でどのように実践するか」に多くのスタッフが参加した。今後は院内での ACP に関する周知、テンプレート作成、ACP 運用マニュアルの作成に取り組む予定である。

④院内迅速対応チーム(RRT)の活動

RRT は特定看護師が中心となり日中のみ活動していたが、6 月より集中治療部、ER 医師の協力を得て 24 時間体制となった。年間の RRT 要請件数は 2023 年 197 件、2024 年度 419 件と毎年増加している。2023 年の院内心停止件数は 61 件、2024 年度は 51 件であった。夜間や早朝、休日などにも安心して要請できる体制ができたことで、患者の急変発生率を低下させ、予後を改善する効果をさらに期待していきたい。

2)急性期から患者、家族の療養生活を支援し、地域につなげる

① 地域連携の推進

イ) GE コマンドセンターの導入に向けてワーキング開始

- ・後方支援病院との連携(Patient Acceptance)
- ・DPC 期間管理・阻害要因特定(Discharge Tasks)
- ・医療の質評価(Patient Manager)

- ロ) 連携施設の開拓と強化 連携施設へのリソースナースの派遣(勉強会講師やカンファレンス参加など)、連携施設へ看護師長・連携室スタッフと同行訪問

②看護外来の定着

- 看護外来(認知症、脳卒中、WOC 等) 160 件
- 心リハ外来(CN による介入) 912 件

3)看護人員の確保と定着

① 看護師確保

- イ) 紹介制度の導入・継続 院内スタッフからの入職の紹介を促す
- ロ) 就職セミナーの開催(5/3、11/17 の 2 回開催)
 - 潜在看護師へのリスキリング研修を実施 1 名参加
- ハ)看護学生の実習受け入れを積極的に行った 2025 年度より 1 校追加の予定
- ニ)県外からの学生の確保を促進する
- ホ) 退職時の支援 お帰りパスポートの作成 7 名配布
- ヘ)インスタでの情報発信 フォロワー867 名

② 看護師定着への支援

- イ) 勤続のお祝いを川井院長のランチミーティングへ勤続年数 5 年、10 年、20 年目の 48 名(11 回)が参加した。卒後 3~5 年目看護師の退職が多いため、勤続数 3~5 年目も次年度はミーティングへの参加を検討する。
- ハ)院内副業制度導入・継続 現在は 16 名 9 部署、月平均 160 時間、職種や家庭状況に合わせて業務内容を調整することで継続できている。
- ニ) 給与・各手当の見直し 住宅手当・夜勤手当の見直し、ベースアップ手当、処遇改善手当
- ホ) 労務管理 休暇取得の推進、ノー残業デイ(月 1 回)、バースデイ休暇、連続 3 日(公休含む 5 日)の連続休暇
- ヘ)働く環境の整備 仮眠室のマットと休憩室の整備を行った。

③看護師の負担軽減

- イ) 看護 DX の推進活動の見直し
 - ・GE コマンドセンターの導入予定
 - ・ダイナミックテンプレートの導入予定(看護データ分析、アウトカム思考の看護記録)
 - ・スマホ、インカムの検討
 - ・生成 AI、RPA の導入検討

4.多様性を捉えた看護師のキャリア支援

今年度より自立的な自己研鑽が行えるように院内・院外へ研修参加を促した。キャリアデザインシートを活用し面接を実施、中期・長期的な目標を管理者とともに考えるようにしている。今後も各々

の看護師や看護補助者が、経験を重ねスキルアップできるような仕組みづくりを行う。

イ) 教育研修(修了)

- ・特定行為看護師研修 3名
- ・新人教育担当者研修 5名
- ・がん看護院内認定看護師研修 6名
- ・ELNEC-J クリティカルカリキュラム 8名

ロ) 資格取得

- ・心不全療養指導士 2名
- ・認定看護師教育課程 認知症看護(B)1名

以上にて専門看護師 8名、認定看護師 16名、特定行為看護師 24名となった。

他に心不全療養指導士、糖尿病・腎臓病療養指導士の活躍があった。

ハ) 看護管理者の育成

- ・認定看護管理者研修ファーストレベル 4名
- ・認定看護管理者研修サードレベル 2名
- ・新任師長・主任研修 師長2名 主任3名
- ・その他、看護師長、主任への目標管理支援、管理の事例検討会

2024 年看護部教育委員会活動

近森病院 シニア看護師長 西本清香

看護部教育委員会では、年間通しての新人看護職員の研修、急変の予測、がん看護、新人看護師を育成するコミュニケーションスキル、倫理などの研修会を開催した。また、2024 年度より外国人特定技能生の受け入れが始まりその研修やリスキリング研修なども行った。

1. クリニカルラダー研修・ラダー認定

2024 年度はレベルⅠ30名、レベルⅡ48名、レベルⅢ7名、レベルⅣ5名、レベルⅤ1名がラダー認定された。今年度より近森会グループでのラダー研修は中止となり、S-QUE クリニカルラダーやナーシングスキルの e-ラーニングや院外研修への受講を促している。しかし、e-ラーニングを受講している者の割合は看護職員全体の 27%と低く、次年度は近森会グループで協力し、研修を行う計画を立てている。

2. 新人看護師研修

2024 年度も例年と変わらず、採血、筋肉注射・点滴静脈注射など基本技術や、BLS・急変時の対応・倫理・看護過程などの研修を実施した。グループディスカッションなども積極的に取り組むことができ、楽しく研修を終了することができた。また、振り返りの会では母校の先生方が来てくださるなどのサ

プライズがあり、懐かしい先生達との話しに大いに盛り上がった。次年度も継続していく予定。メンター制度が開始され、面接やラウンド時の声かけなどを繰り返しながら職場への定着につながった。

3.2 年～3 年目看護師支援

2 年目看護師を対象として、看護師技術チェックリストと成長を支援するためにメッセージカードを贈った。2 年目の技術未到達者 9 名おり 3 年目まで継続して支援を行なう。

4.3～4 年目看護師支援(急変にきづく)

急変に結びつく危険な兆候について、事例を通じて学ぶことを目的に研修を行なった。研修の満足度は高く実践に役立つ内容であるとの意見が多くあった。フィジカルアセスメント・早期警戒スコア(NEWS)について講義・グループワークを行なった。

5.中堅以上の看護師への支援

がん看護の研修は、がん患者に携わる病棟・外来の看護師が受講した。院内認定のベーシックコースの内容であり、今後スキルアップにつなげていく予定。

6. その他

新人看護師を育成するコミュニケーションスキルでは、今時の若者の特徴を知り、先輩看護師としてどのように関わっていけば良いかを学ぶ機会とした。

倫理の研修会では ACP など関心が大きく多くの参加者がありグループディスカッションなど多くの意見があった。

3 年目の看護師支援として職員食堂で交流会を行った。久しぶりに同期に会え会話が弾んだ。次年度は近森会グループとして取り組んでいく。

○2024 年度近森病院看護部 教育委員会 研修実績

内容	日程	参加数
新人を育成するコミュニケーションスキル	8 月 1 日	25 名
	9 月 5 日	16 名
	10 月 17 日	18 名
がん看護	9 月 13 日	19 名
	10 月 11 日	15 名
	12 月 4 日	15 名
急変前の対応	9 月 12 日	42 名
	10 月 3 日	36 名
	11 月 4 日	46 名

倫理学習会	12月4日	49名
	2月12日	16人
中途採用者研修	7月～3月	18名
特定技能生研修	7月、2月	8名
看護実践型リスクリング研修	3月25日	2名
	3月31日	

○2023 年度近森病院看護部 教育委員会 新人看護師研修実績

内容	日程	参加数
看護部紹介・看護協会・看護連盟・近森グループ教育・電子カルテ・感染・医療安全・看護必要度・WLB	4月3日～4月8日	36名
点滴静脈注射・採血・筋注・皮下注	4月9日～4月11日	36名
BLS	5月28日・6月25日・7月23日	36名
図書・システム・放射線・検査・夜勤について	6月6日	36名
薬剤・酸素管理・褥瘡	7月4日	33名
ハートコール、挿管介助	8月24日	31名
多重課題・マイムマネジメント・リーダーシップ	9月5日 9月19日	33名
看護倫理・社会人基礎力	10月3日 10月17日	33名
看護過程・ケースレポート	11月7日 11月21日	32名
医療安全・褥瘡	12月5日 12月19日	32名
振り返りの会	2月6日・	32名

2024 年 看護部実績（ 出張 学会発表 執筆 等 ）

学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
患者の「ありのままに生きること」を支える SDM	○池畠真由美	高知県看護協会看護研究学会	2024. 2. 23 高知
シンポジウム「息切れを考える」 息切れ改善で生活の質向上をめざす 当院の外来心臓リハビリ	○久家由美	日本心臓リハビリテーション 学会 第 7 回四国支部地方会	2024. 3. 2 ～ 3. 2. 香川
「当院における Rapid Response System の見直し～活動の活性化への 取り組みと新たな課題」	○池澤 友朗・山中 京子・ 三木 俊史・細田 勇人	第 51 回日本集中看護学会学術 集会	2024. 3. 14 ～3. 16 北 海道
「当施設 ICU での特定行為実践・研 修の現状と課題～集中領域でのス ペシャリストの活動を支援する～」	○池澤友朗、山中京子、細田 勇人	第 51 回日本集中看護学会学術 集会	2024. 3. 14 ～3. 16 北 海道
「当院 ICU の特定看護師の実践報告 ～期待される次世代のリソースナ ース～」	○吉野広樹、池澤友朗、山中 京子、細田勇人	第 51 回日本集中看護学会学術 集会	2024. 3. 14 ～3. 16 北 海道
「DNAR 指示のある患者に対し RRT の 介入を行った一例～DNAR に生じる誤 った認識を振り返る～」	○中村美月、池澤友朗、山中 京子、細田勇人	第 51 回日本集中看護学会学術 集会	2024. 3. 14 ～3. 16 北 海道
多職種で取り組む高齢者のポリファ ーマシー対策 看護師の立場から	○岡本充子	第 179 回ホスピスケア研究会	2024. 6. 1 WEB
当院、透析室で行うフットケア	○西村剛	第 48 回高知糖尿病チーム医療 研修会	2024. 6. 2 高知
思春期・若年成人世代の造血管悪性 腫瘍患者のがん生殖相談	○渡辺温子・星野隼矢・大塚 歩・貫田みゆき・島田いづみ・ 田代靖子・林美香・有賀悦子	第 29 回日本緩和医療学会学術 大会	2024. 6. 14 ～6. 15 兵 庫
「A 病院での Rapid Response System(RRS) の現状と課題」	○仮谷麗奈、土居紀美、池澤 友朗、齋坂美賀子、山中京子	第 20 回日本クリティカルケア 看護学会学術集会	2024. 6. 22 ～6. 23 沖 縄
「Impella5.5 装着患者に対するマニ ュアルを用いた離床リハビリ」	○土居紀美、仮谷麗奈、池澤 友朗、齋坂美賀子、山中京子	第 20 回日本クリティカルケア 看護学会学術集会	2024. 6. 22 ～6. 23 沖 縄
「治療が奏功せず極限状態にある患 者の生きる時間を支えるケアリン グ」	○齋坂美賀子	第 20 回日本クリティカルケア 看護学会学術集会	2024. 6. 22 ～6. 23 沖 縄
個別性が求められる心不全療養指導 の現状と課題	○井上有紗、久家由美、細田 勇人、中岡洋子、川井和哉	日本循環器学会 第 124 回中国四国合同地方会	2024. 6. 22 ～6. 23 広 島
老年看護のしんかー進化・深化・真 価ー	○岡本充子	日本老年看護学会第 29 回学術 集会	2024. 6. 29 高知
認知機能低下を疑う慢性疾患のある 外来通院患者に対する院内院外連携 ～継続した支援を行うために～	○小松有希・久家由美・竹下 実紀	日本老年看護学会第 29 回学術 集会	2024. 6. 29 ～6. 30 高 知
1 人 1 人に合った心不全在宅療養を チームでつくる	○和田絢世	日本老年看護学会第 29 回学術 集会	2024. 6. 29 ～30 高知
病院と訪問看護ステーションのタイ ムリーな情報共有の体制づくり	○山本詩帆・山下由香・中川 絵美	日本老年看護学会 第 29 回学 術集会	2024. 6. 29 ～6. 30 高 知
当院における頭皮冷却装置 運用へ の取り組み	○藤原キミ、福永有紀子、柳 川信子、沖豊和、杉本健樹	第 32 回日本乳癌学会学術 総 会	2024. 7. 11 ～7. 13 宮 城
認知機能が低下した高齢心不全患者 に対する 外来リハで再入院を支援した一例	○竹内愛理	第 30 回日本心臓リハビリテー ション学会学術集会	2024. 7. 13 ～7. 14 兵 庫
心不全患者が望む生活を多職種で共 有して 支援する当院の取り組み	○永野雄也	第 32 回日本心血管インターベ ーション治療学会学術集会 CVIT2024	2024. 7. 26 ～7. 27 北 海道

メディカルスタッフシンポジウム 「多職種で考える！療養行動支援」 心不全の ACP について考える 心不全患者が望む生活を多職種で共有して支援する当院の取り組み	○永野雄也、久家由美、細田勇人	第 32 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会	2024. 7. 25 ～7. 26 北海道
ECPR について当院取り組み	○川村峰子・山下はづき・小谷梨菜・松村沙耶香・菅根裕紀・細田勇人・川井和哉	第 32 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会	2024. 7. 26 北海道
日本心不全学会 教育セミナー応用編 慢性心不全看護認定看護師と心不全療養指導士の連携と発展	○久家由美	日本心不全学会 チーム医療推進委員会	2024. 7. 28 web
高知県保健指導連携体制構築事業 血管病調整看護師の活動報告 ～成果と課題～	○岩井千代美	第 6 回近森会グループ学術集会	2024. 8. 3 高知
病棟から入退院センターへのタスクシフト	○岩井千代美 永野智恵	第 6 回近森会グループ学術集会	2024. 8. 3 高知
看護部教育委員会活動報告（第一報） ラダーレベルⅡ看護過程活動報告	○友草杏理（看護部教育委員会）	第 6 回近森会グループ学術集会	2024. 8. 3 高知
「近森会グループ看護部教育委員会活動のこれまでと今後」	○久保博美・森本志保・西本清香・中村里江・山崎成美・	第 6 回近森会グループ学術集会	2024. 8. 3 高知
「急変を未然に防ぐ取り組み。近森病院 RRS の活動」	○池澤友朗	第 6 回近森会グループ学術集会	2024. 8. 3 高知
「身体拘束を減少するための取り組みについて」	○徳橋晃樹	第 6 回近森会グループ学術集会	2024. 8. 3 高知
「DNAR 指示のある患者に対し RRT の介入を行った一例～DNAR に生じる誤った認識を振り返る～」	○中村美月	第 6 回近森会グループ学術集会	2024. 8. 3 高知
治療抵抗性心不全をもつ後期高齢者への訪問看護師による緩和ケア	○扇谷静香・川上理子	第 29 回日本在宅ケア学会学術集会	2024. 8. 24 ～8. 25 神奈川
高知県保健指導連携体制構築事業 血管病調整看護師の活動報告 ～成果と課題～	○岩井千代美	第 20 回日本医療マネジメント学会 高知県支部学術集会	2024. 8. 25 高知
「急変を未然に防ぐ取り組み。A 病院 RRS の活動」	○池澤友朗	第 20 回日本医療マネジメント学会学術集会高知県支部学術	2024. 8. 25 高知
「身体拘束を減少するための取り組みについて」	○徳橋晃樹	第 20 回日本医療マネジメント学会学術集会高知県支部学術	2024. 8. 25 高知
一般公募企画「特定行為研修修了者と看護管理者の Win-Win コラボレーション」 「特定行為研修修了者の活動支援」	○吉永富美	第 55 回日本看護学会学術集会	2024. 9. 28 熊本
コロナ禍におけるパス活動と今後の課題	○濱口富代・尾知美穂・吉原悠衣	第 24 回日本クリニカルパス学会学術集会	2024. 10. 4 ～10. 5 愛媛
個別性を重視した看護計画を実践して	○尾崎章 中野晋輔 川越達矢 伊勢脇涼乃 皆津柚花 山中俊典	精神科看護看護協会高知県支部 看護研究発表会	2024. 10. 19 高知
近森病院における心不全の現状と多職種介入の実際	○久家由美	高知県心血管疾患リハビリテーション研究会	2024. 11. 9. ハイブリッド
「RRS 対応患者に対する M&M カンファレンスでの検証」	○池澤友朗	第 26 回日本救急看護学会学術集会	2024. 11. 18 ～ 11. 19 東京
ECPR の取り組み	○谷岡祐門・酒井由香・野瀬美保・上總麻里子	第 26 回日本救急看護学会学術集会	2024. 11. 18 ～ 11. 19 東京
資格取得後で広がった連携の輪	○井上有紗	講演会	2024. 12. 3 山梨

講演、外部講師

題	講師	主催	開催
メンタルヘルス研修「怒りとのつきあいについて」	久保博美	独立行政法人地域医療機能推進機構 高知西病院	2024.2.17
集中治療セミナー（多職種セミナー）	齋坂美賀子（ファシリテーター）	日本集中治療医学会 第8回中国・四国支部学術集会	2024.4.20
近森病院 公開県民講座「急変を未然に防ぐ！」	池澤友朗	社会医療法人近森会近森病院	2024.6.2
心不全を知ろう～心不全症例から考える療養支援～	久家由美	高知心不全連携の会 心不全勉強会	2024.4.26
心不全チームにおける心不全療養指導士の役割～看護師としての立場から～	久家由美	循環器疾患未来投資フォーラム 高知分科会看護師ミーティング 日本ペーリンガーインゲルハイム（株）	2024.5.29
心不全について考えてみる	久家由美	くぼかわ病院	2024.6.1
糖尿病性腎症患者への指導におけるポイントについて	岩井千代美	高知県健康政策部保健政策課	2024.6.7
第24回高知県糖尿病看護「土佐の会」セミナー 能登半島地震を通じて災害時の糖尿病患者を考える	伊与田美香	テルモ株式会社	2024.6.30
第24回高知県糖尿病看護「土佐の会」セミナー 生き延びた命を守る	岩井千代美	テルモ株式会社	2024.6.30
ピアサポーター養成研修	武田直子	一般社団法人りぐらっぶ高知	2024.6.29 ～ 6.30
令和6年度多施設合同研修の	齋坂美賀子・池澤友朗（インストラクター）	公益社団法人高知県看護協会	2024.7.10 ～ 7.12
ICP 管理でレベルアップ重症脳損傷における治療と管理・多職種連携の最前線 「異変に気づく！ICP で管理する脳外科看護」	池澤友朗	Integra Japan 株式会社	2024.7.16
アセナピンアンバサダーセミナーIn 高知～アセナピンをきちんと届ける～	山中俊典	MeijiSeika ファルマ株式会社	2024.7.25
令和6年度地域災害支援ナース育成研修（実務編）	齋坂美賀子・立石修久（演習指導者）	公益社団法人高知県看護協会	2024.7.27
令和6年度認定看護管理者教育課程ファーストレベル	森本志保（ファシリテーター）	社団法人高知県看護協会	2024.8.16 、 8.17、 8.18
アセナピンアンバサダーセミナーIn 高知～アセナピンをきちんと届ける～	山中俊典	MeijiSeika ファルマ株式会社	2024.8.29
令和6年度看護職員認知症対応力向上研修	小松有希・明神拓也	公益社団法人高知県看護協会	2024.9.8 ～ 9.10
ピアサポーター養成研修	武田直子	一般社団法人りぐらっぶ高知	2024.9.26 ～ 9.27
令和6年度感染管理担当者研修	近森幹子	公益社団法人高知県看護協会	2024.9.29
高齢者看護の質向上のための看護管理実践	岡本充子	日本老年看護学会	2024.10.13
ELNEC-J 高齢者カリキュラム概要・M1・M8	岡本充子	高知県看護協会	2024.10.19 ～ 10.20
高齢者の終末期看護～ELNEC-J 看護師教育	小松有希・明神拓也	公益社団法人高知県看護協会	2024.10.19 ～ 10.20

心不全チームが繋げる療養支援の実践からみえてきた在宅療養の課題 循環器疾患未来投資フォーラム 沖縄分科会	久家由美	日本ベーリンガーインゲルハイム(株)	2024.10.23.web
アセナピンアンバサダーセミナーIn 高知～アセナピンをきちんと届ける～	山中俊典	MeijiSeika ファルマ株式会社	2024.10.24 (ハイブリッド)
第10回呼吸療法セミナー「人工呼吸器患者のアセスメントについて①鎮痛鎮静管理について」	土居紀美	高知県臨床工学技士会	2024.10.26
第10回呼吸療法セミナー「人工呼吸器患者のアセスメントについて②ポジショニングについて」	仮谷麗奈	高知県臨床工学技士会	2024.10.26
末期心不全の在宅療養移行支援	久家由美	慢性心不全・心不全看護認定看護師中国四国地域会 事例検討会 岡山大学病院	2024.11.2
災害看護研修「災害支援ナース・地域災害支援ナースフォローアップ研修	北川知子	公益社団法人高知県看護協会	2024.11.2
理学療法部門管理論	近森幹子	土佐リハ学院	2024.11.7
令和6年度新人看護職員研修	森本志保	公益社団法人高知県看護協会	2024.11.8
高知県在宅医療推進フォーラム	山本志帆	高知県医師会	2024.11.16
第16回高知心臓血管疾患リハビリテーション研究会	久家由美	大塚製薬株式会社	2024.11.19
タスクシフトで看護師も他職種も専門性を発揮し、自ら考え動くチーム医療を実現ーコア業務にフォーカスしたタスク・シフトの取り組み	岡本充子	日本看護協会	2024.11.27
県政出前講座「人税会議」のススメ	山本志帆	高知県健康政策部在宅療養推進課	2024.11.28
タスクシフトで看護師も他職種も専門性を発揮し、自ら考え動くチーム医療を実現ーコア業務にフォーカスしたタスク・シフトの取り組み	岡本充子	日本看護協会	2024.11.27
心不全チーム医療 WEB セミナー	井上有紗	日本ベーリンガーインゲルハイム(株)	2024.12.3
心不全療養指導士の資格で広がった連携の輪	井上有紗、久家由美、細田勇人	山梨・長野 心不全療養指導士会 講演会 甲府城南病院 / 日本ベーリンガーインゲルハイム(株)	2024.12.10 web

外部委員

題	氏名	主催	開催/期間
中国四国ライブ in 倉敷 2024	増井麻佳(座長) 松村沙耶香(シンポジスト、スタッフ)	中国四国地区心血管インターベンション研究会	2024.2.24

支部ニュース編集委員	久保博美	日本精神科看護協会高知県支部	2024.4～3
日精看教育委員	山中俊典	日本精神科看護協会高知県支部	2024.4 ～ 2025.3
高知県ピアサポーター養成研修委員	武田直子	日本精神科看護協会高知県支部	2024.4 ～ 2025.3
令和6年度アディクション・フォーラム高知実行委員	久保博美	高知県立精神保健福祉センター	2024.5 ～ 2025.2
2024 年度看護研究発表査読委員	久保博美	日本精神科看護協会高知県支部	2024. 7 ～ 2025.6
社会貢献委員会委員	久家由美	一般社団法人日本循環器看護学会	2024.11.9 ～ 2026.10
四国ストーリーナビリテーション講習会実行委員	安松和美(実行委員)	四国ストーリーナビリテーション講習会	2023.4.1 ～ 2024.3.31
高知大学医学部付属病院人材育成支援センター認定看護師教育課程教員会	近森幹子(標記委員)	高知大学医学部付属病院人材育成支援センター	2023.4.1 ～ 2025.3.31
高知県看護協会	地区理事(中央1)	森本志保[更新]	2024.6.1 ～ 2025.5.31
	災害看護委員会	森本志保[更新]	
	継続教育委員	尾知美穂[継続]	
	研究学会委員	濱口富代[更新]	
	広報出版委員	山脇寛子	
	医療安全委員	西岡成巳	
	看護研究倫理審査委員	永野智恵	
	ナースセンター運営協議会委員	吉永富美[継続]	
	令和 6 年度選挙管理委員	田村一恵	
	3 職能生きる力を育むいのちの教育検討委員	尾崎貴美	
	看護管理者支援事業、看護管理者支援事業委員会	工藤淑恵	
高知県看護連盟		斉藤尚子	

看護学校等非常勤講師

近森病院附属 看護学校非常勤講師	溝依百世 堀尾恵	精神看護援助論Ⅰ
	武田直子 永尾三千 佐野理香 上田秀彰	精神看護援助論Ⅱ
	吉永富美	チーム医療
	山本詩帆	在宅看護概論
	杉村多代 山下由香 岡本しのぶ	在宅看護援助論Ⅱ
	工藤淑恵 立石修久	災害看護・演習Ⅰ
	酒井由夏	災害看護・演習Ⅱ
	濱田智恵 池畠真由美	成人看護援助論Ⅱ 周術期看護

	濱口富代	成人看護援助論Ⅱ 循環器看護
	徳留裕也	成人看護援助論Ⅱ 脳卒中看護
	岩井千代美	成人看護援助論Ⅲ 糖尿病看護
	川田愛弓	成人看護援助論Ⅲ 腎泌尿器看護
	久保博美	人間関係・カウンセリング
	岡本充子	老年看護学概論 老年看護援助論Ⅲ
	西岡成巳	医療と安全
高知中央高等学校専攻科	山中俊典	精神看護学概論
	永尾三千 堀尾恵 上田秀彰	精神看護方法論Ⅱ
土佐リハ学院	近森幹子	理学療法部門管理論

論文発表・著書

タイトル	執筆者 共同執筆者	掲載誌 出版社	巻・号 ページ
看護の視点からみた入院医療における高齢化の現状と課題	岡本充子	病院 医学書院	83(1) p50-55
老人看護専門看護師のパイオニアとして	岡本充子	老年看護学 一般社団法人日本老年看護 学会	28(2) p15-17
第2章 病院の地域療養支援の取り組み ②急性期病院の取り組み 心不全看護認定看護師による地域療 養支援	編著:田中いずみ 執筆:岡本充子	ナーシングビジネス 2024 年夏 季増刊:看護管理者が進める 地域療養支援ガイド BOOK メディカ出版	254 号
10 章 認知症支援における専門職間 連携ー地域包括ケアの目線から	責任編集・執筆:中島紀恵子 執筆:岡本充子	認知症の人びとの看護 医歯薬出版株式会社	
3章 報告 南海トラフ地震“最悪のシ ナリオ”に向けた取り組み 3-2 医療機関の立場から	工藤淑恵	看護 日本看護協会出版会	76 (14) P 97-102